

「復活の体」

□はじめに

イエス・キリストとは・・・

イエスは、今から約2千年前、紀元前7年頃、イスラエルのベツレヘムで生まれました。当時のイスラエルは、ローマ帝国の支配下にあります。旧約聖書の預言によれば、キリストの出現が近い時期であり、イスラエルの人々はキリストが現れることを待ち望んでいました。

「キリスト」とは、イスラエルの王、それも永遠に生きて地上に正義と平和の世界をもたらす王を意味します。

イエスは十字架刑に・・・

旧約聖書の預言では、キリストが現れるときには、預言者が起こされ誰がキリストであるかを示すと言われていました。そのとおりに、洗礼者ヨハネと呼ばれる預言者が出て、イエスがそのキリストであると人々に示しました。

イエスは、それから3年半の間イスラエルの国内を巡って、キリストであることを示す数多くの奇跡を行いました。ところが、イスラエルの指導者たちはイエスをキリストとは認めず、紀元30年4月7日、無実の罪でイエスをローマ総督に訴え、その日のうちに、イエスは十字架にかけられ、死んで墓に葬られました。

イエスは三日目に復活した・・・

しかし、イエスは三日目によみがえりました。それも、単なる蘇生ではなく、二度と死ぬことのない体をもって復活したのです。そして、復活から40日後、弟子たちが見ている中を天に昇っていかれました。

イエスの復活は、イエスがキリストであることの証明です。永遠に生きる王であり、やがてこの地上に帰り、この地上に正義と平和をもたらしてくださるお方です。

信じる者も復活の体を受ける・・・

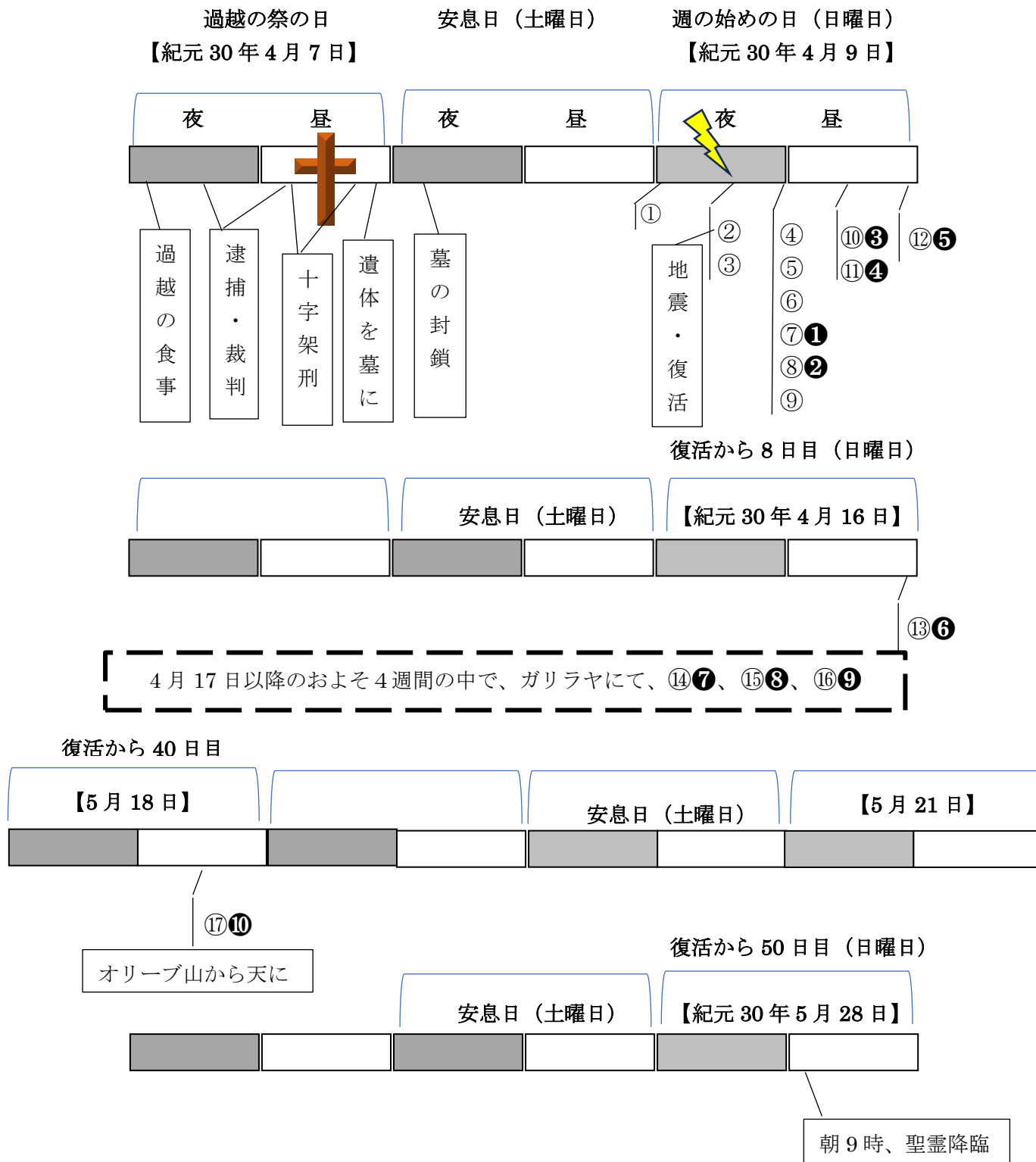
聖書は、イエスの十字架上の死が全人類の罪の身代わりであったと教えています。そのことを信じるならば、私たちは罪を赦され、永遠のいのちを受け取ることができます。そして、永遠のいのちを受けた人は死んでも、イエスが復活したのと同様、二度と死ぬことのない体をもって復活し、キリストの国に立つことが約束されています。イエスの復活は、イエスに続く信者たちの復活の見本でもあるのです。本日は、イエス・キリストの復活の体がどのようなものであったかを、聖書から見ましょう。

□アウトライン

《図表》	十字架刑から3日目に復活、復活から50日目までの出来事の一覧・・・・・・	2
A) ～E)	イエスの復活をめぐる出来事・・・弟子たちへの現れは10回・・・・・・	3
F)	イエスの復活の体の特徴9つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
G)	新約聖書が記す「最も大切なこと」	
H)	勧め・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10

《図表》 十字架刑から3日目に復活、復活から50日目までの出来事の一覧

丸数字は、復活に関係する17の出来事の番号、黒丸数字はイエスの現れの番号



A) イエスの葬り

紀元 30 年 4 月 7 日金曜日、イエスは十字架の上で死んだ。夕方になり、アリマタヤ出身で金持ちのヨセフという人が、総督ピラトにイエスのからだの下げ渡しを願い出た。ヨセフはからだを受け取ると、きれいな亜麻布で包み、岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入口に大きな石を転がしておいて、立ち去った。イエスとともにガリラヤから来てイエスに仕えていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。（マタイ 27：54～56、マルコ 15：40～41、マタイ 27：57～61、マルコ 15：47、ルカ 23：55）

B) 遺体処理の追加のための準備

アリマタヤのヨセフがイエスの遺体を墓に納めたとき、時間が限られていたので、遺体の処理が十分ではなかったようである。見ていた女たちは、追加の処理が必要だと思っていた。自分たちの手持ちの香料を準備し、不足分は安息日が明けたら買うことにした。（ルカ 23：56）

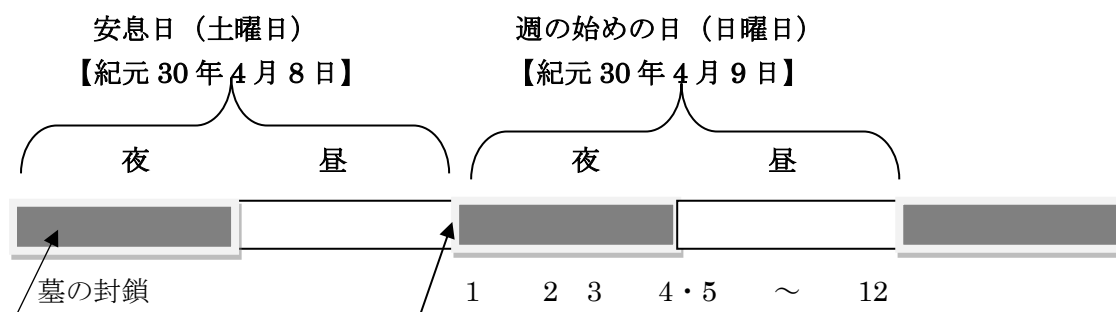
（注）安息日とは、週の七日目。今の曜日でいうと土曜日。

C) 墓の封鎖

イエスはかねてより復活を予告していた。ユダヤ指導者層はイエスが復活するとは信じていなかったが、遺体を弟子たちが盗み出し、「復活した」とデマを流されては面倒なことになると心配した。そこで、日没後、ユダヤ指導者層はローマ総督に依頼して、墓を封鎖した。このことは、弟子たちも女たちも知らなかった。（マタイ 27：62～66）

なお、ユダヤの暦では、太陽が沈み、星が3つ見えたら、日付が変わり、「明くる日」となる。4月8日、週の七日目、安息日に入った。今の暦の感覚では、まだ金曜日の夜である。

D) イエスの復活の日 12 の出来事（1～4 番目は夜の間、5～12 番目は昼の間）



1. 香料の購入

安息日（土曜日）の夕方が過ぎ、空に星が3つ見えてから、三人の女たちが香料を買いに行った。そのうちの二人は、その足で墓を見に行った。おそらく、そのとき、墓の園

に大勢の人たちがいたので、二人の女は墓には近づかずに帰ったであろう。彼女たちは、その人たちが墓を封鎖しているとは知らなかった。（マルコ 16:1、マタイ 28:1）

2. 墓の入口の石が動いた

夜、大きな地震が起こった。地が揺れ動く間に、墓の入口の石が転がされて、墓が開いた。石を転がしたのは、稲妻のように天から降って来た天使であった。その恐ろしさに兵士たちは体が硬直し、動けなくなった。（マタイ 28:2～4）

この地震は、イエスが復活した瞬間を示すしるしであったと思われる。ただし、墓の入口の石を動かしたのは、イエスをそこから出すためではない。復活したイエスのからだは、肉や骨はもっているが、物体を通り抜けることができた。天使が石を転がしたのは、番兵たちに墓が空になったことを見せるため、また、ローマの封印も神の前には何の力もないことを示すためであった。

3. 兵士たちの逃亡

兵士たちは意識を取り戻し、その場から逃げた。ただし、兵営に帰ることはできなかった。封印を破られ、その犯人を捕らえることもできなかった彼らは、処罰されるからである。夜が明けるのを待って、ユダヤ人の祭司長たちのところにリーダー格の何人かが相談に行くことにした（→出来事の9番）

4. マグダラのマリアが一人で墓に来た

早朝まだ暗いうちに、マグダラのマリアが一人で墓に来た。墓の入口の石は転がされていて、墓の中をのぞくと何も無い。彼女はとっさに思ったであろう。「夜、墓の付近に大勢の人たちがいたのは、そのためだったのか」と。彼女は、あわてて弟子のペテロとヨハネのもとに走った。（ヨハネ 20:1～2a）

5. 他の女たちが墓に来た

マグダラのマリアが墓から去ってペテロたちのもとに走っているとき、入れ替わりに何人かの女たちが、香料を持って墓に来た。すると、墓の入口の石は転がされていた。墓の中に入ると、イエスの遺体はなく、まっ白な衣をまとった青年が一人、座っていた。天使であった。天使は、女たちにイエスがよみがえったと告げ、弟子たちにガリラヤに向かうように伝えなさいと告げた。女たちは震え上がり、墓を出て、そこから逃げ出した。（ルカ 24:1～3、マルコ 16:2～8）

6. ペテロとヨハネが駆け付けた

4番の出来事からの続き。マリアの知らせを受けて、ペテロとヨハネが墓に走って来た。マリアも、ペテロとヨハネの後を追って、墓に来た。

ヨハネ 20:2～10 （マリアは）走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子（ヨハネ）のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行き

ました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」

そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロより速かったので、先に墓に着いた。そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。

彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

（遺体の体に巻かれた亜麻布と、頭を包んだ亜麻布が、そのままの形で、あたかも遺体がそこからすり抜けたかのようにして、床にある）

そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。

彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

7. 【イエスの現れ①】 マグダラのマリアにイエスが現れた

- (1) ペテロとヨハネは墓から帰ったが、マリアは墓の前でたたずんで泣いた。泣きながら、墓の中をのぞき込むと、二人の天使がいた。

ヨハネ 20：11～13 一方、マリアは墓の外にたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。すると、白い衣を着た二人の御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、一人は頭のところに、一人は足のところに座っているのが見えた。彼らはマリアに言った。「女の方、なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません。」

- (2) このとき、イエスがマリアに現れた【イエスの現れ①】

ヨハネ 20：14～17 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、彼が園の管理人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのであれば、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。」イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り向いて、ヘブル語で「ラボニ」、すなわち「先生」とイエスに言った。イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

- (3) マリアは、クレオパやほかの弟子たちが嘆き悲しんでいるところに行って、そのことを知らせたが、誰も信じなかった。（ヨハネ 20：18、マルコ 16：9～12a）
（→10 番の出来事）

8. 【イエスの現れ②】他の女たちにイエスが現れた

(1) マリアが墓から帰った後、入れ替わりに、他の女たちが再び墓に来た。一度は気が動転して墓から逃げ出したが、気を取り直して、もう一度、墓を見に来たのであった。彼女たちに再び天使が現れて前と同じことを伝えた。彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、弟子たちに知らせようと走りはじめた。

(2) 走り出して、まもなく、イエスが現れた【イエスの現れ②】。

マタイ 28：9～10　すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。イエスは言われた。
「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

(3) かくして、復活のイエスに出会った最初の証人マグダラのマリアに続き、ここでの2番目の証人たちも、女たちであった。彼女たちは、弟子たちに伝えた。（マルコ 16：8に続く補足記事）

(4) ルカの福音書 24：9～12 は、出来事 6 番目から 8 番目までについて、まとめて簡潔に記している。

9. 兵士たちの報告

出来事 8 番目で女たちが仲間の弟子たちのところに向かったころ、兵士たちの内のリーダー格の何人かが、祭司長たちのところに行き、事件を報告した。（マタイ 28：11～15）

10. 【イエスの現れ③】エマオ途上で二人の弟子にイエスが現れた

マグダラのマリアからの報告を受けても信じなかったクレオパともう一人の弟子、この二人がエルサレムから出発して、エマオという村へ向かった。その道すがら、復活のイエスが彼らに現われた。

ルカ 24：13～33a　ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから 60 スタディオン余り（約 11 km）離れた、エマオという村に向かっていた。彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。

イエスは彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。

そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。

「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、仲間の女たちの何人かが、私たちを驚かせました。彼女たちは朝早く墓に行きましたが、イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、彼らはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちが言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったではありませんか。」
それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。

彼らは目的の村の近くに来たが、イエスはもっと先まで行きそうな様子であった。彼らが、「一緒にお泊りください。そろそろ夕刻になりますし、日もすでに傾いています」と言って強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた。そして彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

二人は話し合った。「道々お話しくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。」二人はただちに立ち上がり、エルサレムに戻った。

11. 【イエスの現れ④】使徒ペテロにイエスが現れた

11 人の使徒の中で最初に復活のイエスを見たのは、ペテロ。それ自体の記事はなく、使徒たちが後で会話する中で、そういうことがあったとわかる。

ルカ 24 : 33b～34 十一人とその仲間が集まって、「本当に主はよみがえって、シモンに姿を現された」と話していた。

(注)「十一人」とは使徒たちのこと。ただし、この集まりに参加していた使徒は 10 人、使徒たちの中でトマスだけはそこにいなかった。この集まりの出来事は、次の 12 番。

12. 【イエスの現れ⑤】10 人の使徒たちにイエスが現れた

(1) 10 人の使徒たちとその仲間が集まって、主イエスがよみがえったのではないかと話し合っているところに、クレオパともう一人の弟子の二人が急遽エマオ途上から引き返して来て、道中で起こったことやパンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を報告した。それでも使徒たちの意見は一致しなかった。

- (2) 仲間たちを帰し、使徒たち 10 人が食卓に着いた。そこにイエスが現れた【イエスの現れ⑤】。

マルコ 16 : 14 その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに現れ、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになった。よみがえられたイエスを見た人たちの言うことを、彼らが信じなかったからである。

ルカ 24 : 36～43 これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。

「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい（十字架刑で釘付けられた傷跡がある）。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。そこで焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。

ヨハネ 20 : 19～20 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

- (3) イエスは約束（1回目）を与えた。

ヨハネ 20 : 21～23 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」（約束の内容＝派遣・聖霊の照明・使徒の権威）

- (4) あとからトマスは聞いたが、信じなかった。（ヨハネ 20 : 24～25）

出来事 8 番の（2）での、イエスの命令「ガリラヤに行きなさい」に対して・・・トマスが信じなかったので、11 人の使徒たちは、ガリラヤに向けて出発しなかった。

E) 【復活の日からちょうど一週間後】 から 【復活の日から 40 日目】 まで

13. 【イエスの現れ⑥】 ちょうど一週間後、トマスもいるときに使徒たち 11 人全員にイエスが現れた。トマスも信じた。これで使徒たち 11 人全員がそろって、ガリラヤへ。
 ……ヨハネ 20：26～31、I コリ 15：5

14. 【イエスの現れ⑦】 ガリラヤ湖にて 7 人の使徒たちにイエスが現れた。和解の食事。
 ……ヨハネ 21：1～25。2 節 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナの出身のナタナエル、ゼベダイの子たち（ヤコブとヨハネ）、そして、ほかに二人の弟子が同じところにいた。（彼らは、ガリラヤ湖の漁師たちであった）
15. 【イエスの現れ⑧】 ガリラヤ湖畔の山上で 500 人以上の弟子たちの前にイエスが現れた。大宣教命令（この中には、イエスの約束 2 回目が含まれる）。
 ……マタイ 28：16～20、マルコ 16：15～18、I コリ 15：6
16. 【イエスの現れ⑨】 弟のヤコブにイエスが現れた。家族である弟たちがイエスを信じるきっかけ。……I コリ 15：7

17. 【イエスの現れ⑩】 十一人の使徒たちに現れた
- (1) 復活の日から 40 日目、11 人の使徒たちに現われ、約束 3 回目を与えた。
 ……ルカ 24：44～49、使徒 1：3～8、I コリ 15：7
- (2) その後、エルサレムの東の山、オリーブ山の上に行き、彼らが見ている中をイエスは天に上げられた……ルカ 24：50～53、使徒 1：9～12

F) イエスの復活の体の特徴 9 つ

1. ① ③ すぐにはイエスとわからなかった
2. ⑤ ③ 突然現れたり、消えたりすることができた
3. ⑤ 物体を通り抜けることができた
4. ⑤ かと言って、幽霊というわけではなく、肉と骨を持っていた（注 1）
5. ⑤ 十字架刑のときの傷を残していた（注 2）
6. ⑤ ⑦ 食事をすることができた
7. ② 他の人がさわるすることができた
8. 特に⑧ 他の人が見るすることができた
9. ⑤ 息をすることができた

- (注1) 復活の体には、血はない（参照 レビ 17：11「実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。」）
- (注2) マグダラのマリアやクレオパに現れたとき、イエスはごく普通の人に見えたが、それは昇天前だったからである。昇天によりイエスは栄光に輝く姿となる（ピリピ 3：21、黙 1：12～18）。よって、昇天後のイエスの体には、もはや十字架刑の傷はないものと考えられる。
- 参考：信者の復活の体にも傷はない ルカ 21：18、エペ 5：27、I テサ 5：23

G) 新約聖書が記す「最も大切なこと」 コリント人への手紙第一 15章3～7節

私（使徒パウロ）があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書（旧約聖書）に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、またケファ（使徒ペテロ）に現れ（出来事の 11 番）、それから十二弟子（出来事の 12 番と 13 番）に現れたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました（出来事の 15 番）。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。

その後、キリストはヤコブ（イエスの弟）に現れ（出来事の 16 番）、それからすべての使徒たちに現れました（出来事の 17 番）。

H) 勧め

弟子たちは、その後、迫害を受け、社会的地位も財産も、そして命をも失っていきました。イエスの復活が彼らの作り話だったとしたら、そのような苦難に皆が耐えられるでしょうか。彼らが命がけでイエスの復活を伝え続けたのは、イエスの復活が真実だったということです。

あなたも、ぜひ、復活の主を信じて、永遠のいのちをお受けください。そして、主と同じ復活の体をいただき、再びこの地上に立つ日をお迎えください。

参考文献

- COME&SEE Vol.3 “DIVINE REDEEMER” Arnold G. Fruchtenbaum, TH.D., PH.D.
- THE LIFE OF MESSIAH Vol.4, Arnold G. Fruchtenbaum, TH.D., PH.D.